

## 第22回東北地区国立高等専門学校技術職員研修 参加報告

研修参加者：鈴木徹技術長、伊藤眞子副技術長、第1班：遠田明広、佐藤大輔、木村英人、  
第2班：一条洋和、本間康行、鈴木大介、遠藤健太郎、技術第3班：○矢作友弘、志村良一郎

### 1. はじめに

令和2年8月21日に開催された第22回東北地区国立高等専門学校技術職員研修に参加したので報告する。この研修は、東北地区の国立高等専門学校に勤務する技術職員に対して、その職務遂行に必要な一般的知識及び新たな専門的知識、技術等を修得させることにより、技術職員としての資質の向上を図ることを目的として、東北地区の各校持ち回りで毎年開催しているものである。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、初めてMicrosoft Teamsを利用したオンライン形式で、実施されることとなった。研修期間については、例年の2日間から1日へと短縮され、研修内容の特色としては、例年行われている技術発表の代わりに、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する課題発表が新たに盛り込まれた。

### 2. 開催概要および日程

- ・令和2年8月21日
- ・主幹：秋田高専（オンライン形式）
- ・日程
  - 9：00－9：30 接続確認
  - 9：30－9：50 開講式・参加者自己紹介
  - 10：00－11：40 課題発表と討議  
(第1セッション)
  - 11：40－12：40 昼休憩
  - 12：40－13：00 接続確認
  - 13：00－13：40 講演  
「遠隔授業－新時代の授業システムと秋田大学教育文化学部サポートチーム」  
講師：秋田大学大学院 林 信太郎 教授
  - 14：00－15：40 課題発表と討議  
(第2セッション)
  - 15：50－16：00 閉講式

### 3. 研修内容等

#### 3-1. 感染防止に関する課題発表について

課題発表では、各校の感染防止対策の取り組み事例が紹介され、情報を共有した。例えば、仙台高専名取キャンパスでは、機械実習工場での実習において、複数の大型ディスプレイを新しく設置し、実習前の説明の際に学生が集合する必要がないように対応している。さらに、学生が作業する手元にカメラを設置することで、学生から距離を取った状態でも、技術的指導ができるように対策を講じている。仙台高専広瀬キャンパスでは、手指消毒のための手洗い場を廊下に増設したり、実験室内の強制換気のために複数のサーキュレーターを新規に購入設置したりする等、感染防止対策を強化しているといった対応事例の発表があった。

#### 3-2. 講演内容について

秋田大学大学院の林教授より、コロナ渦において、秋田大学の教育現場が急速にICT化された現状と、その実現のために技術職員サポートチームの多大なる貢献があった旨、ご紹介があった。また、ICTツールを利用した遠隔授業は、非常に便利なものであり、コロナウイルス流行の収束後も、この授業スタイルは継続される見込みであることが述べられた。

### 4. 研修会に参加して

オンライン形式での研修は初めての経験であったが、滞りなく研修会を受講することができた。研修参加旅費が不要であることや、研修参加人数の制限がないことは、オンライン研修の大きな利点であると感じた。

この研修会で得た、コロナウイルス感染予防対策と遠隔授業に関する様々な知見を今後の教育研究支援業務に役立てていきたい。